メディアから見る学校の部活動における体罰の表象とその変遷

Media representations of corporal punishment in school sports clubs

１K０９B５０４-１　内藤　絵梨
主査 リー・トンプソン 先生　　副査 池本淳一 先生

【目的】

今日日本では、体罰は禁止されており、当然存在してはならないものとして倫理的解釈がなされてきた。また、体罰を「行う側」と「受ける側」に大別し、の二者間とそれを取り巻く環境に携わる者達といった閉鎖的な問題として取り上げている場合が多いと感じる。

そこで、本論文ではその倫理的解釈から更に一歩踏み込み、新聞分析を用いることで、部活動に於ける体罰を客観的に考察することができると共に、「世間」を体罰を支える要素になりうるものとして捉え、「世論」に於ける体罰観にフォーカスすることで、体罰が当時の人々にとってどの様なものであるか、かつ、それが遷移するとしたらどの様な要素が原因となっているのか、を探ることによって、体罰を「行う側」と「受ける側」の二者間のものとする議論から逸脱し、社会体系に於ける体罰の立ち位置を議論することが可能となる。また、２０１２年１２月に起きた大阪市立桜宮高等学校バスケットボール部員の体罰による自殺事件から世間に於ける体罰は、もはや社会問題と化した。世間の体罰観に何らかの変化が見られたであろうこの時期に、本研究を行うことで、今後の体罰観の変貌、その行先を考察する。

【方法】

本論文に於ける調査は、新聞記事を用いたものである。新聞記事を分析するにあたり、早稲田大学学術情報検索を使用した。分析に用いた新聞は、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞の３紙である。朝日新聞は聞蔵Ⅱビジュアル、読売新聞はヨミダス歴史館、毎日新聞は毎索を用いて部活動に於ける体罰についての記事を検索した。対象とした期間は明治１２年（１８７９年）１月１日から平成２５年（２０１３年）１０月３１日までとした。また、上に記した期間を明治１２年（１８７９年）１月１日～昭和２０年（１９４５年）１２月３１日と、昭和２１年（１９４６年）１月１日～平成２５年（２０１３年）１０月３１日に二分した。これは著者が戦時中の軍国主義的思想から逸脱した昭和２１年（１９４６年）以降から人々の体罰観に大きな変化が見られるのではないか、と予想し設定したものである。

【結果】

明治１２年（１８７９年）１月１日～昭和２０年（１９４５年）１２月３１日の朝日新聞・読売新聞・毎日新聞の３社に於いては、「体罰　部活」０件、「しごき　部活」０件、「スパルタ　部活」０件、「鉄拳　部活」０件、「暴力　部活」０件、「体罰　学校　クラブ」０件、「しごき　学校　クラブ」０件、「スパルタ　学校　クラブ」０件、「鉄拳　学校　クラブ」０件、「暴力　学校　クラブ」０件、「体罰　学校　倶楽部」０件、「しごき　学校　倶楽部」０件、「スパルタ　学校　倶楽部」１件、「鉄拳　学校　倶楽部」０件、「暴力　学校　倶楽部」０件で、合計が僅か１件となった。

昭和２１年（１９４６年）１月１日～平成２５年（２０１３年）１０月３１日に於いては、同検索で総記事数は、５９１１件という結果になった（図１）。

【考察】

部活動に於ける体罰は「教師」と「学生」の二者間に留まる問題ではなく、それを支える基盤となるものにはメディアや保護者とった「世論」が大きく加担していることは、本論文の調査で明らかになったことであり、国家のダブルスタンダード的立場が国民を混乱させたことの結果が今日になってもなお体罰がはびこる結果をもたらしているのである。これらの支持基盤を崩すためには、国家体制での学校及び部活動の閉鎖性の打破を行い、これらを開けた場所にする政策が必要不可欠である、と強く感じた。

	部活	クラブ　学校	倶楽部　学校
体罰	2527	393	18
しごき	77	34	0
スパルタ	48	78	17
鉄拳	15	16	1
暴力	1500	1114	73
合計	4167	1635	109

（図１）戦後の体罰に関する新聞記事数